

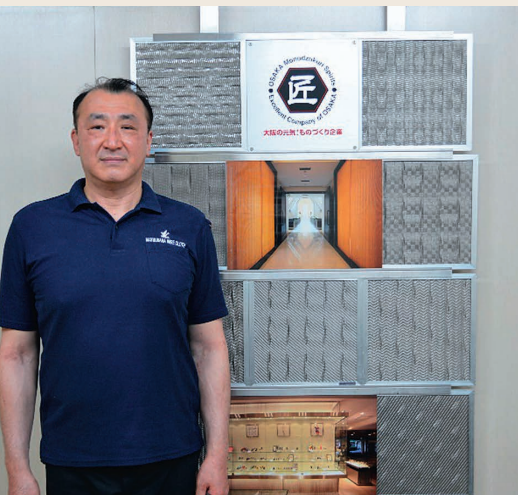
細部まで徹底的にこだわった製品づくりで

金網の新たな可能性を創造

マツバラ金網 株式会社



マツバラ金網株式会社



マツバラ金網 株式会社

代表取締役：東田 龍一郎 氏

創業：昭和36年6月

従業員数：28名

事業内容：金網の製造・販売・二次加工
金網加工品の製造・販売・
網の張替え
その他線材加工品の販売
装飾用金網の製造・企画・
販売・施工

マツバラ金網株式会社は創業以降、金網製品の開発に注力されてきました。一般的に「金網」といえば焼き網やフェンスなどをイメージされる方が多いと思います。いずれも正解ではありますが、ここで製造されているのは一般的なイメージの金網ではありません。今回は「金網の町 松原」で創業から現在に至るまで、そしてこだわりの製品や今後の展開まで代表取締役の東田龍一郎氏にお話を伺いました。

—「金網の町 松原」で創業

当社は大正10年、私の祖父が現在の大阪府松原市で金網織りの修行を行ったのが始まりです。

松原市は、江戸時代に度々氾濫する大和川の付け替え工事を行ったことで稲作に適さない土壌に変化しました。そこで先人達は米の代わりに綿の収穫を行い、綿を紡いで「河内木綿」を完成させました。しかし、幕末に入ると、海外から安い繊維が輸入されるようになり、河内木綿の需要は激減したそうです。そこで先人達が次に考えたのが同じ織り機で「金網」を織ることでした。そこから松原市は「金網の町 松原」と呼ばれるまでに成長したようです。

—こだわりの製網で高性能な金網作り

当社では、80年以上にわたる金属製網で蓄積した「織」と「金属」のノウハウで金網の製造・販売を行ってまいりました。

あらゆる金属線をはじめ、異種の金属線の混線、金属線と樹脂線の混線など様々な線を用いた新素材が製網できます。また、「ハイメッシュ」と呼ばれる蜘蛛の糸のような16μmのステンレス線を織り上げるシルクのような柔らかさの金網も製網可能です。

これらの金網は燃えにくく半永久的に使用できることから濾過用、補強用などあらゆる産業の重要な場面で使用されています。



手織りでの金網製造風景

祖父は昭和9年に独立しました。昭和36年には祖父の下で働いていた私の父が独立し、マツバラ金網製作所を創業。その後、昭和51年に現在のマツバラ金網株式会社を父の会社の業務を引き継ぐ形で設立しました。



様々な金網製品の製造を行う

金網（メッシュ製品）は高性能化、精密化が進んでいます。当社では、素材

デザインメッシュでスタイリッシュな空間を演出



高さ7m越えのデザインメッシュはオブジェや照明とも相まって、洗練された空間を演出しています。

阪急MEN'S TOKYO
※現在は意匠変更されています

大迫力の壁画を 繊細な技術で再現

ウジェーヌ・ドラクロアの名画「民衆を導く自由の女神」を金網の技術を用いて織りました。こちらの壁画は松原市役所に寄贈させていただき、エントランスに飾られています。高さ3.7m×幅5.9mに及ぶ、迫力のあるものになっています。



の段階からバラツキのない金属線を厳選し、機械に縦糸を巻きつける段階では張力が一定になるようにコンピュータで制御するなど、厳しい品質管理を行い、高度化する顧客の要求に対応しています。

—長年の技術を駆使し、金網業界をPR

長年培ってきた金網の技術に応用し、未知なる製品への挑戦を意欲的に行っています。

その中のひとつが、金網を用いて絵画や特殊な模様を描いた「デザインメッシュ」の作成です。デザインメッシュはもともと金網業界のPRを目的として始めたのがきっかけでした。ステンレス鋼独特の輝きや質感、機能性を生かしつつ、色の濃淡やバランスなど、特殊技法を用いて細部のデザインにこだわり織り上げています。

本来、網はモノをふるい分けるために使用されるものですので、均等な網目ではないデザインメッシュはその真逆にあるものかもしれません。しかし、視線を遮りながら透過性を備え、光の屈折や反射により豊かな表情を生み出すデザインメッシュならではの特性が注目され、ブティック・レストラン・ホテル・サロンなどの店内装飾に使用され、空間を演出しています。

しかし、デザインメッシュは“重い”という点が建築構造上の課題となっています。そのため現在は軽量な製品の開発にも取り組んでいます。



デザインメッシュ

—その人にしかできない仕事を

当社では社員の教育にも注力しており、大阪府工業協会が主催する禅寺合宿研修にもよく参加しています。学歴や年齢も様々な人や、他社の同時期に入社した働く環境の違う方たちと意見交換を行うことで視野が広がり、人として一皮むけるのではないかと考えています。

“一人退職したら一人採用して、やめた人の分を補ってもらえばいい”という考え方ではなく、社員にはたとえ雛形通りではなくてもお客様と常に1対1

として臨機応変に対応できる知識やコミュニケーションスキルを身につけてほしいと願っています。

—いばらの道もチャンスに

「お客様の立場に立ったものづくりを行うこと。そしてお客様の立場に立ってものを売ること。」それを一番大切にしています。

当社では、創業から伝わる変わらない信条があります。

『線を盗むな、目を盗むな』

材料の線の太さや目合いをごまかさず、誠意をもって製品づくりを行うことをこれからも守り続けます。

同時に新しい技術への挑戦も積極的に行っていきたいです。「変」「非常識」「不可能」「危険」にあるものは誰も手を出したがりませんが、これらは新しいモノを作り出すチャンスだと考えています。

かつて、ガラス片などで手を切ることがないように金属製の糸で編んだ「切れない軍手」を開発しました。今後はその延長線として電磁波障壁の機能を持つ衣類を作りたいと考えています。

—貴重なお話をいただき、

誠にありがとうございました。